

立命館大学環太平洋文明研究センター第3回研究会

2014年4月24日(木)18:15-19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館2F 研究会室2

## 変わりゆくモンゴル牧畜社会

### —都市近郊における定着化政策と牧畜経営の実態

富田敬大（環太平洋文明研究センター専門研究員：人類学）

近年、モンゴル国では、都市近郊を中心に牧畜民を定着化させようとする動きが広がっている。移動性の高い生産・生活様式を定着化させ、近代的畜産を確立することは、社会主義国として近代化を目指した20世紀初頭以降、モンゴル農牧業政策の一貫した課題であった。本発表では、こうした牧畜定着化をめぐる動きが都市近郊の人間と環境の関係におよぼす影響を、過去100年にわたる牧畜社会の変容を踏まえながら考えてみたい。

立命館大学環太平洋文明研究センターは昨年4月に新設された新しい研究組織です。「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」のが目的です。人類学、環境考古学、地理学、考古学の研究者からなる研究組織です。

定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。



都市近郊牧地プロジェクトの援助により建てられた酪農場。このグループは、410ヘクタールの土地で外来種や混血種のウシのみを飼育している。

問い合わせ先：矢野健一（文学部：kyl21175@lt.ritsumeil.ac.jp）

立命館大学環太平洋研究センターHP：<http://www.ritsumeil.ac.jp/research/rcppc/>